（調査様式１）

１．　自己評価及び外部評価結果

作成日 平成30年3月10日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4675200192
法　人　名	有限会社　　福寿
事 業 所 名	グループホーム　小山田の里
所　在　地	鹿児島県姶良市加治木町小山田1419-1 （電 話）0995-62-7800
自己評価作成日	平成30年2月8日

※事業所の基本情報は，WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ＮＰＯさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町１６番A棟３Ｆ３０２号
訪問調査日	平成30年2月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

竜門校区にコミュニティができ、その一員として迎え入れていただいております。高齢化が進み同時に独居の世帯が増えている小山田地区ですが地域内の住民の方々はボランティア精神があり地域行事への積極的な参加も盛んです。グループホームへの訪問や地域行事へのお誘いも多く交流が図りやすい地域です。少子化が進み竜門小学校の存続を地域住民の共通の目標とすることで、児童、高齢者が生活しやすい地域づくりを目指し、働く世代である子育て世代の家族の迎え入れに力をいれています。また、まちづくりプランの計画推進にむけて、様々な関係機関との連携も充実しておりそれぞれが資源であるという同一の考えのもと、コミュニティと協力連携で地域との良い関係づくりを図らせていただいております。

事業所内では認知症をテーマにした勉強会を定期的に行うことで、認知症介護者として必要な知識や技術を高められるよう共に頑張っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点，工夫点（評価機関記入）】

○当ホームは、加治木インターから車で５分程度の幹線道路沿いで、近隣には、コンビニエンスストアや郵便局、小学校などがあり利便性のよい立地にある。

○地域の要望で地域住民の憩いの場所となるよう飲食店の経営もしており打ちたての蕎麦を求め地域の方が足を運んでいる。また、利用者も手打ちそばを堪能するのが外食の楽しみの一つとなっている。

○両ユニットは、建物は別々であるが、日々ユニット間の交流が積極的に実施され、地域のボランティアの方や保育園児との交流活動、ホームや地域行事、地域の方の面会などを通じて日常的に交流している。

○運営推進会議では、災害時の協力依頼や地域の課題をメンバー同士議論し活発な意見交換をおこない協力関係を築きともに地域の一員としての絆を深めるなど事業所自体が、「地域おこし」の一端を担っている。

○職員は、理念や基本方針に沿ったケアに取り組み職員に浸透している。ホームは、地域とつながりを重視した開かれた施設を目指している。

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり，管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	利用者の方々が地域方々と関わりながら、その人らしく安心して生活できるように支援している。 理念（自分を愛し　人を愛し　自分らしくゆったりと　楽しく　暮らしましょう）を毎朝復唱し理念の共有を図っている。	理念は、朝礼で唱和され職員の意識も高いが、振り返りの機会が少ない。しかし、職員は常に理念に沿ったケアやサービスを心に取組んでおり、利用者が自分らしい生活の実現に向けて地域で暮らすことを意識した理念である。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう，事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	全職員、近隣住民とのかかわりを大切にしている。農作物の差し入れをいただくなど自然に交流をさせていただいている。地域の方から、行事に参加してくださったり、夜間等の緊急時に声をかけて下さるなど、近隣の方々には特に助けていただいている。また、地域の班活動などにも参加させていただき、地域の美化作業等にも参加している。	自治会に加入し、コミュニティのメンバーの一員として期待されており、「地域おこし」の役割を果たすべく地域とのつながりを常に念頭に置き、総会、定例会への参加、老人クラブとの活動、ふるさと祭りへの参加、保育園児との交流活動など地域と積極的に関わっている。また、小学校の存続など地域課題をともに検討するなど日常的に交流している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	地域の小学校の体験学習・その他実習等の受け入れは積極的に行っている。コミュニティ協議会の地域づくり部に所属して地域行事に取り組んでいる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回定期的に開催しており、運営状況や行事・催し等について報告している。参加者の意見を職員会議等で報告し、改善の方向で進めている。また、開示等を行っている。	家族に向けたアンケート調査を実施し、「看取り」「災害」に特化して意識調査をおこない、地域に対しては、災害時の協力体制を協力依頼している。地域が行うサロンは、対象要件もあるため実施が困難であることもあり、ホームが主体となり地域活性化の一端を担えるよう検討しているところである。	

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り，事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら，協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者・地域包括支援センターとの連携を大切にし、アドバイス等を頂きながら進めている。 当施設からも積極的に行政の事業に参加させていただくよう努めている。	市主催の認知症サポーター養成講座の講師協力や徘徊模擬訓練への参加、福祉事務所との連携、成年後見人（弁護士）との関わりや協力体制がある。また、市職員には避難訓練にも参加をもらうなどしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており，玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の無いｹｱを全職員意識して取り組んでいる。 日中は施錠せず開放されており、外出傾向のある方への対応として、目配り・気配り・声かけや一緒に散歩を行ったりと対応している。又、近所への理解・協力を依頼してある。	離床センサーの活用があるが、職員は、転倒予防だけでなく、自然の形で、「気づき」を第一に考えて検討している。年数回、研修会を開催したり職員向けに、「高齢者虐待防止に向けた施設従事者のための自己チェックリスト」にてアンケート調査を実施するなど、身体拘束廃止への取り組みの意識が高い。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	常に人生の大先輩であることを念頭に置き、利用者一人ひとりを尊重してサービス提供に取り組んでいる。職員間で互いに意識し合い、虐待防止に努めている。 随時、管理者と職員は個人面談を行い心身の状態の把握に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について社内勉強会を行い、意識しているが、全職員が理解するまでには至っていない。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前訪問・入居時に本人・家族に重要事項の説明を行なうと同時に、質問事項等を受けて説明を行なっている。 また、報酬改定の際は十分に理解していただいた上で契約を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	受付窓口にご意見箱の設置があり自由に意見が書けるようにしてあり、責任者等を提示してあり説明も行なっているが、積極的に意見を表せるには難しい一面も考えられる。出された意見については職員会議等を通して職員には周知を行っている。	利用者には、言葉を変え理解しやすいよう希望や要望を聞き取り、家族は、面談や電話などでいつでも意見、要望などが出せる関係づくりに努めている。出された意見は、職員会議などで話し合い、サービスにつなげたり、質の向上を図っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常日頃より自由に意見や提案ができるように取り組んでいる。職員会議でも発言等の機会がある。また、月に2回程度主任会議を行い、現場の意見や交流を図り、業務が円滑に取り組められるよう努めている。	子育て世代の職員も多いが、勤務交替や公休取得についても協力体制があり関係性は良好で離職率も低い。理念を意識し、来訪者を常に「笑顔」で迎え入れてくれる印象があった。管理者は、議題は職員と十分に意見交換してから結論を出すよう計らっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス要件に着目して就業条件も改善されてきている。事業所の目指すものが明確化され、仕事への意欲も向上してきている。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人事考課を行い個々の能力を把握し、不足している点をOJT・OFF－JTの活用にて積極的に案内や参加を呼びかけている。 職員会時に研修報告を行い、参加できなかった方でも知識・技術が還元できるように取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	姶良・伊佐地区グループホーム連絡協議会に参加しており、姶良市・伊佐市・霧島市とブロックごと催しが開催され、研修参加を促すことで研修を通してネットワーク作りが出来ている。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人との対話を積極的に行い、関係性を築くことが出来るように取り組んでいる。また、希望・要望等を受け止め信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用開始前に家族への声掛けを行い、不安や困りごとを受け止め、希望・要望に対応できるように努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時点で、ご本人やご家族様にとって最優先解決課題を見極めた対応に心がけている。また、今後の生活スタイルの思いやその人らしさを視野に入れて、他のサービス利用の検討を含め話し合いを進めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者各々の出来ることへの協力をもらいながら、職員と一緒に楽しみながら日常生活を送り、時には利用者から教えをいただくこともある。共に寄り添う気持ちで生活をするように心がけて対応している。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族とも常に連携を取りあつて、本人にとって今、何を必要としているのかを模索し、対応するように取り組んでいるが家族によっては、協力や対等な意見交流が難しいと感じる場面がある。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの関係が維持できるよう、知人・友人・親戚など自由に面会できるようにしている。又、色々な行事にも自由に参加できるように対応している。	ふるさと訪問を実施し、運動会や地域行事への参加を促すなど個別の外出支援をしている。また、家族との関係が希薄にならないよう連絡を取り合ったり、知人や友人の方の訪問もあり、ゆっくりと歓談できるよう配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の交流の機会もあり、お互いに自由に交流できるようになっている。また、よい関係づくりのサポートの一つにリビングでの席の配置等にも気を付けている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院退所時など、職員や入居者とで面会に行っている。再利用も受け入れている。いつでも相談等受け入れる体制をとり、家族と連絡も取り合っている。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	可能な限り利用者の希望・要望に沿えられるよう内容の把握に努めている。本人の思いを上手く拾い上げ少しでも実現出来るよう支援したい。	利用者の思いを受け止められるよう職員間で情報交換をしながら、利用者の思いを共有する努力を怠らないよう努めている。意志表出が困難な方には、家族の情報を参考にしたり、日々の暮らしの中で表情やしぐさ、ことばの中から思いを汲み取るよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活暦やライフスタイルをお聞きし、今後の希望・要望を聞き取り入居者の方々の支援を行うように取り組んでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者・家族の希望・要望を重視し、心身機能・残存機能を意識して自立支援を心がけている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスに参加できない家族に関しては、事前に意見をうかがうようにしている。ともに時間をすごす職員が気付きを反映できるような雰囲気づくりに努めている。	月２回ケア会議を開催し、個別カンファレンスを実施、家族には毎月の支払い時に、近況を説明の上支援の状況報告や今後のケアの方向性などについて説明や相談をしている。介護計画書②表は、アセスメント情報が具体的に記載される様式になっており、総合的な援助の方針を記載するなど①表を補完した内容になっている。	

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌・個別のケース記録に記録している。特に重要になる申し送りの共有としては伝達ノートを使用している。このノートは気付きを各職員が自由に記入し、職員それぞれが確認したら必ずサインするようにし、情報共有の抜け防止に心がけている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況・要望に応じて、医療受診等の送迎等、柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域住民・行政・民生員・ボランティア・消防・教育機関等の協力を頂きながら支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診に対応できる医師や看護師との連携を図り、容態変化時など相談し対応していただいている。 主治医は本人・家族の希望するかかりつけ医としている。	入所前のかかりつけ医が訪問診療し診察や内服処方などしている方や家族や職員が対応し外来受診している方がおられる。訪問歯科診療による義歯調整があったり、緊急時の対応にて適切な医療が受けられるよう訪問看護師との連携も図られている。	

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師にfaxと直接連絡等で現状報告している。職員に看護師資格取得者もおり、健康管理等の助言･アドバイスをもらっている。 医療連携や看取りに対応できる看護職員がいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療機関のソーシャルワーカー及び病棟担当看護師、家族と連携をとり、早期退院に向けて情報交換を行うための関係づくりを心掛けている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の有り方に付いて、本人・家族の希望等をお伺いして希望があれば終末ケアに取り組むようにしている。医師の協力を得るようにしている。事業所職員の看護師のオンコール対応を常に行っている。	契約時に重度化や終末期に伴う対応の指針を説明し、段階に応じて主治医や家族、職員間で話し合いを行っており、利用者、家族には意志確認を十分におこない、事業所でできることを理解していただいている。看取りの実績もあり、今年１月に家族向けのアンケートによる意識調査を実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所のマニュアルに沿って対応できるよう職員に説明している。急変時のマニュアルや緊急連絡網を掲示してある。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月防災の日を設定している。 年に２回の防災訓練を行い訓練時には地域住民の方々にも声掛けを行い、参加して頂いている。	昼夜想定の避難訓練には、地域の協力体制もあり自動通報装置は地域の４役員にも通報されるしくみがある。「地すべり地区」であることから、地震を想定した訓練の実施や消防団の協力体制がある。居室入口には、防煙と避難完了の目印のハンカチが掛けてあり、備蓄があり毎月防災訓練を実施するなど防災意識も高い。	

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりを尊重した声かけを行なっている。 個人情報にも気配りして対応している。	利用者の尊厳を第一に考えて日々のケアに取り組んでいるが、利用者への言葉かけや対応は特に意識している。管理者は、職員への指導やアドバイスは時間を置かずその都度するようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の要望・希望を受け止め、本人の能力に合わせて、自己の判断で納得した生活をしていただけるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ルーチン的な流れで進められているところもあるが、出来るだけその人らしい生活ができるように取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	意思表示のできる方は、自分なりのおしゃれが出来るように取り組んでいる。意思表示の出来ない方に対しては職員サイドで考慮して考えながら支援している		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作成には入居者方々の意見を聞きながら作成している。 職員も共に会食を行なっている。 片付け等は出来る範囲で協力をもらいながら共に行なっている。料理は可能な限り、好みに合わせて対応するように努めている。	ユニットごとにメニューは異なるが、メイン食材は共通しており地域や家族からの差し入れが多い。花見には弁当やオードブルを戸外で楽しんだり、手打ちそばを食べに行ったり、餅つきの餅も食している。また、おやつ作りや能力に応じてお手伝いをいただくなど食事が楽しみになるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は毎食チェックを行うようにしている。 厳密なカロリー計算はされていないが、おおむねバランスの取れたものになっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者の能力に応じて、声かけ・一部介助・全介助にて実施されている。　必要に応じて、協力歯科医師の訪問診療をお願いし、指示を仰いでいる。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンの把握を排泄チェック表で行い、出来るだけトイレでの排泄が可能となるように取り組んでいる。	布下着で排泄が自立している方がおられたり、不潔行為のある方、下肢筋力低下から立ち座りが困難な方があるなどするが、職員は排泄動作を介助したり、排泄のリズムを把握し誘導してなるべくトイレで排泄ができるよう支援している。また、食事や水分補給などを工夫し排便コントロールしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物については出来るだけ繊維質の多い食材を使用するようにしている。 水分補給に心がけ、乳製品等の摂取にも積極的に取り組んでいる。お一人づつの体質に合わせて軟便又は便秘にならないように、心がけている。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	基本的には曜日設定等を行なっているが、希望があれば、臨機応変に対応している。	週２回程度と回数は決めているが、必要性や本人の希望があれば入浴をしていただくなど柔軟に取り組んでいる。同性介助への配慮もあり、利用者が安心し入浴を楽しむことができるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の都合でいつでも臥床･休息が出来るようにしてある。 リビングに椅子が設置され、自由にゆったり出来るような環境づくりをこころがけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人ひとりの服薬情報つづりを作り、それを基に服薬支援を行っている。特に薬が変わった場合は症状の変化に注意を払い、確認し合うようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の残存能力に合わせて食事の準備、洗濯物たたみ，洗濯物干しを手伝っていただくなど、できる事や出来た事を共に喜び感謝する対応を行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	高齢化や重度介護者が増えたこともあり、一人づつのその日の希望での外出の支援までは難しい現状がある。室外での活動・散歩・ユニット間の交流等は状況をみて日常的に行っている。 遠足・花見・ソーメン流しなどの特別な行事は前もって計画を立て、外出等の機会を作るよう気を付けている。	互いのユニットの間に藤棚がありその下で休憩しながら散歩を楽しんだり、週２回程度を外出の日に割り振り、地域のイベント、行事などに出かけたり、ドライブを楽しむなどしている。 また、職員と墓参りに行かれる利用者もおられるなど、外出も個別に対応している。	

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は家族より小遣いとして事務所で預かり、現金出納帳に記載し管理している。　外出・買い物の日などがあるが、本人の自己管理が難しいためか、本人がお金を持つチャンスの場となっていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	代筆希望等がある時は、代筆の支援を行っている。 職員室内に電話が設置してあり、希望に応じて使用いただけるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	車いすや、シルバーカーなどでも安全に移動できるように共用空間の安全を重視していることもあり、過ごしやすさという空間環境への配慮がやや不足しがちである。	玄関や共有スペースに生花が活けてあり、対面キッチンでリビングからウッドデッキへと移動し備え付けのテーブルがあり椅子に座り、外を眺めながらお茶ができてそのまま戸外に出かけることも可能な住環境である。天井は高く収納にも活用されており、採光があり天井には青空に雲が描かれたペイントがされ戸外にいるかのようである。また、飾りつけが季節を感じさせテレビやソファが配置され思い思いに過ごせるよう工夫がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間でのお一人づつの居場所はほとんど決まっている。ただ、重度化により入居者同士の個別な交流は難しく、気の合う入居者様同士は席を隣同士にするなど気を付けている。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に入居案内により、これまでの生活環境の継続のため、今まで使用されていた使い慣れ親しんだ家具・生活用品・装飾品等の持込を呼びかけしている。	訪問にて専門職からリハビリを受けておられる方は、自主メニューが掲示してありリハビリに取り組んでいる。畳部屋もあり、天井～床固定の手すりの設置、家族との筆談用ノートがあったり、怪我をしないようサイドレールは保護材で包んであり、馴染みの物を持ち込み本人が安心して居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴槽・トイレ・廊下には手摺りが取り付けられている。居室入り口には個別の表札が取り付けてある。 トイレはどこからでも見えるよう表示をしてあり、間違いや混乱しにくいように気を付けている。		

Ⅴ　アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：23,24,25）		1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
		○	3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：18,38）		1 毎日ある
			2 数日に１回程度ある
		○	3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：38）		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 （参考項目：36,37）		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 （参考項目：49）		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 （参考項目：30,31）		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 （参考項目：28）		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 （参考項目：9,10,19）		1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：9,10,19）		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に１回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して，地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり，事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，活き活きと働けている。 （参考項目：11,12）		1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
		○	3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない